

駒澤大学創立百周年記念号の発刊に当って

北 村 健之助

本学創立百周年を迎え、記念事業が遂行されてまいりましたが、建設等をめぐって黒い噂さがマス・コミによって報道され、いろいろな臆測を生み出したこともありました。黒い影を払拭し、学園を明るくするために、学園の民主化への方向が、すべてのエネルギーを結集しておのずから勃然として湧きあがったのであります。古い陋習を破り、新しい時代の要請に応え、本学発展への確固としたステップを築くことこそがわれわれの責務であると思います。

経営学部は創設来、十数年の歴史よりもちません。本学百年の歴史からみれば、その1コマにすぎません。しかしながら内実は、百年の歴史に匹敵する程の充実ぶりを示しつつあります。わが国経営学の草創期において、多大の貢献をなした故佐々木吉郎元教授をはじめ、掛谷力太郎教授、森凱雄元教授(退職)、石井彰治郎教授、長松秀志教授といった歴代経営学部長のもとで着々と教育・研究の充実が図られてきたのであります。優秀な人材の確保はもちろん、1部・2部教育内容の改善、入学試験の公正化等前向の努力が重ねられてまいりました。

ただ1学部だけの努力で、すべてが成るというものではありません。学園そのものに新しい息吹きが要求されているのであります。今や、われわれは2つの重要な課題を背負っていることができます。万難を排して、その解決に向わなければなりません。Der Weg aufwärts! であります。創立百周年に当って、学部スタッフによる研鑽の成果をここに編集することになりました。もとより、これで自己満足するつもりはありません。なお一層の充実への努力を願うものであります。大方のご叱正を賜わることができればと思うのであり

ます。

教育・研究，行政というすべての面で，百周年に相応しい輝かしい1頁を是が非でも残して，将来における栄光あふれる学園を夢見たいものであります。ここに百周年を記念して経営学部紀要を刊行するとともに，決意を新たにして今後の夢多き展開を祈る次第であります。